



インタビュー

小林内科外科医院

専門性の高い安心できる医療を期待
しています。

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき地域医療に関わるお話しやお知らせをお届けしたいと思います。
今回は 小林内科外科医院院長小林先生にお願いしました。



院長
こばやし のぶひさ
小林 伸久先生

当院との医療連携について期待されることはどのような事ですか？

当院からの患者紹介は、国際医療福祉大学病院のほか、那須赤十字病院や那須中央病院、那須脳神経外科病院への依頼が多い状況です。国際医療福祉大学病院には、緊急紹介の症例はほぼ全例受け入れていただき、また、地域医療連携室にも日頃からご配慮をいただき感謝しています。今後も専門性の高い安心できる医療をお願いします。また、当院では訪問診療も行っていますが、国際医療福祉大学病院からは神経内科を中心に患者様をご紹介いただいております。訪問看護ステーションも含め、更に連携を密にとっていきたいと思っています。

ご自分のクリニックで力を入れていることを教えてください。

栃木県の「認知症サポート医」の一人として登録を受けております。もともと認知症に関して知識が豊富なわけはありませんでしたが、役目を与えられたからには、国際医療福祉大学病院の神経内科の先生方や地域の専門分野の先生方にご指導をいただきながら、地域の認知症診療の橋渡し役として、また大田原市の認知症初期集中支援チームの一員として、役目を全うしたいと考えています。

ご自分のストレス解消法を教えてください。

本年度は当番で大田原地区医師会の幹事となりました。毎月の定例会と講演会の準備や、医師会旅行の計画など、任務は多々ありますが、定例会後の先生方との懇親会は耳学問にもなり、またお酒を酌み交わすことである種ストレス発散にもなります。

最後に地域の方々、患者さんへ一言

寝たきりの方や治癒の難しい癌の方など、通院治療が困難な方には、在宅医療という選択肢があります。ご自宅などで医師や看護師や介護士などの訪問を受け療養するものです。現在、東北地域では在宅医療に携わる医療・介護の多職種が連携を深め協力体制の充実を図っています。地域包括支援センターなどにもお尋ねいただき在宅医療に関心を持ってください。

とちまるネットの利用を多くなさっておりますが、活用方法を教えてください。

当院ではこれまで県内の諸病院に対し1000人以上の患者様の「とちまるネット」登録を行い、国際医療福祉大学病院にも130人の登録をしています。利用目的としては、①病院への紹介患者の診療経過を把握する、②当院受診患者の過去の診療情報を得る、③画像診断を病院に依頼する、などがあります。病院から紹介された訪問診療の症例であれば、訪問前に治療経過の情報を得ておくことで患者様も安心されます。ただし、得られる情報はあくまで患者様の個人情報であるという点を忘れないよう心掛けております。また、病院と当院の両方に通院中の患者様の場合、本人が病院で検査結果の説明を受ける前に、こちらで結果を知り得ることもあるので、過剰な説明をしないという注意が必要です。要望としては、現在は各病院での公開情報量に差があるため、今後なるべく均一化してほしいと思っています。

- ◆ 院長 小林 伸久
- ◆ 住所 大田原市富士見1-1606-265
- ◆ 電話 0287-23-8870
- ◆ 診療科目 内科、外科、消化器内科、肛門科
- ◆ 休診日 日・祝日・水(午後)

2017/6/26

国際医療福祉大学病院
発行：地域医療連携室

病院長よりご挨拶



病院長
おおわだ みちたか
大和田 倫孝

本年4月より桃井病院長に代わって新たに病院長に就任しましたので、ひとことご挨拶を申し上げます。

当院の医療圏は栃木県のみならず関東地方北部や東北地方南部からなり、これらの地域から多くの患者様にご来院いただいております。地域の皆様の健康を守ることと同時に、国際医療福祉大学の附属病院として、医療福祉に貢献する人材育成も使命としています。今年度は成田市に医学部が新設され、医療系大学として完成された感があります。それに伴い、第1期生が臨床実習を開始する2020年からは、当院が臨床実習施設として中核的な役割を担うこととなります。医学生が多くの症例を学ぶために、地域の先生方のご協力がなお一層必要な状況となります。そして将来、ここで学んだ医学生がこの地域で活躍してくれることを期待しています。

地域社会において安全で豊かな生活を送るためには、交通や教育とともに医療の存在が不可欠です。当院は、地域の先生方から多数の患者様をご紹介いただき、安心して受診していただける医療を心がけており、353床の病床を擁し、千人を超える職員が日々努力を続けています。

診療部門としては、47の専門診療科があり、さらに、安心の医療をご提供するために関連診療科で15のセンターを形成し、複数の専門家がチームとして十分な協議のもとで医療を実施しています。加えて、多くの皆様や企業にご利用いただいている予防医学センター（人間ドック）もあり、地域の方々の健康を見守り、健康維持と病気の早期発見に貢献しています。

栃木県北でも少子、高齢化が進んでいます。この問題の解決は簡単ではありませんが、解決策のひとつに信頼される医療が必要なことは確かです。地域の先生方と当院が協力して、この地域で医療が完結できるように日々努力したいと存じますので、今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

お知らせ

開催日：平成29年7月12日(水)

内容：国際医療福祉大学病院 地域医療福祉ネットワーク総会
国際医療福祉大学病院 学術講演会および地域医療連携懇談会

場所：カシマウエディングリゾート

※ご案内状は別途郵送となっております。

地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

電話：0287-37-2221(代表)

地域医療連携室ホームページ URL：<http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>

基本情報



心療内科ご紹介

2017年4月より、当院に2名の心療内科医が着任し、診療を行っています。
心療内科は心身症、つまり心と体、ストレスが密接に関わっている身体の病気（不調）を専門に診療する科です。

- 身体の病気や症状がストレスや心理社会的要因によって悪化、難治化している（心配事やストレスを感じることがあると腹痛、喘息、アトピー性皮膚炎などが悪くなるので何とかしたいが、どうストレスに対処してよいかわからない）時、
- 機能的な身体疾患や症状で悩んでいる（頭痛、腹痛、下痢と便秘、疲労、疼痛、微熱、めまいなどの症状があるので検査を受けたが異常がないと言われる、自律神経失調症と言われて悩んでいる）時、
- 慢性の身体疾患や悪性疾患の経過中に様々な不調が生じ、苦痛に感じるようになった（痛みの薬をもらっているのに効かなくなってきた、不眠などの症状が加わった）時、

には身体の治療に加えて、心理社会的要因、ストレスや自律神経に対する総合的な治療を行うと、症状が軽減されたり、コントロールしやすくなったりすることがあります。

特に心理社会的要因が関与することの多い病気には表のような病気があります。

このような疾患に対する治療法は身体疾患に対する治療（内科的薬物療法、生活指導）に加えて、心とストレス、自律神経に対する治療（漢方薬を含む薬物療法、自律訓練法、心身相関の気づきを促し治療する心身医学療法、環境調整など）を合わせて行なってゆきます。どの治療法の組み合わせを用いるかについては、病態を評価した上で、その患者さんに適切と判断される方法を選択します。さらにストレス性の疾患の治療では、患者さん自身が治療者（自分のストレスに関する専門家）になってもらうことも大切です。そのため心療内科では、患者さん自身が自らのストレスとその影響について気づき、賢く対処でき、身体疾患、症状を上手くコントロールできるよう、またストレスがあっても意味ある生き方ができるよう、援助いたします。

参考

(表) 心身症としての治療が必要となることの多い病気

1. 呼吸器系：気管支喘息、過換気症候群、神経性咳嗽
 2. 循環器系：起立性調節障害、高血圧症、一部の不整脈、タコツボ心筋症
 3. 消化器系：心因性嘔吐、びまん性食道痙攣症、消化性潰瘍、機能的消化管障害（機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群）、潰瘍性大腸炎
 4. 神経・筋肉系：緊張型頭痛、片頭痛、斜頸、書痙
 5. 内分泌系・代謝系：摂食障害、糖尿病
 6. その他：心因性発熱、慢性疲労症候群、慢性疼痛
- などが挙げられます（ただし上記の説明の通り、あらゆる身体疾患は、その病気を持っている患者さんがストレス状態に置かれると心身症になり得ます）。



心療内科部長
おか たかかず
岡 孝和

プロフィール
広島大学卒、前九州大学大学院医学研究院心身医学分野准教授
日本心身医学認定研修指導医・心身医療「内科」専門医、日本東洋医学会認定漢方専門医

心身症全般の治療を行います。特に慢性疲労症候群、心因性発熱、起立性調節障害の治療を専門としております。



心療内科医長
やまだ ゆう
山田 祐

プロフィール
島根医科大学卒、前埼玉県立精神医療センター医長
日本心身医学会・日本心療内科学会心療内科専門医、日本医師会認定産業医

心身症全般の治療を行います。がん患者の緩和ケアの治療経験が豊富です。

診療体制	月	火	水	木	金	土
午前	山田祐(初診)	—	岡孝和(初診)※1	岡孝和(初診)	—	—
午後	岡孝和(再診)	—	—	岡孝和(再診)	山田祐(再診)	—

完全予約制です。心療内科初診の際は、紹介状（診療情報提供書）と予約が必要です。（※1慢性疲労外来）
また、他科での検査や治療の方が、より適している、もしくは優先順位が高いと判断された方に対しては、内科各科や精神神経科などの受診をお勧めすることがありますので、ご了承ください。

とちまるネットについて

「とちまるネット」とは、患者様から同意書を取得して、情報提供施設（病院）に保管されている診療情報を医療機関の間でインターネットを介して共有し、診療に役立てる栃木県全域のネットワークです。平成25年から登録が開始され、平成29年2月までに延べ346施設が参加し、13,085名の患者さんの情報の共有が可能になっています。これにより、栃木県の地域医療連携、医介連携、診診連携、病病連携が強化され、診療情報のみならず地域連携クリティカルパス等を共有することで、医療の質・安全性の向上を図り、より良い医療・介護サービスを受用できる豊かな社会基盤整備を目指しています。

当院は、情報提供施設として平成26年6月から登録を開始しました。本年5月までに、9施設の情報閲覧施設の参加があり、合計406名の患者様登録が行われています。当院ではHumanBridge（富士通）と呼ばれるシステムを導入しています。「とちまるネット」を利用するためには「運用講習会の受講」「利用申込書の提出」が必要で、詳細は栃木県医師会内の「とちまるネット」のホームページ（<http://tochimarunet.jp/qa>）をご確認ください。利用にはインターネットが使える環境、セキュリティ対策が必要ですが、現在のところ本ネットの利用料は無料です。データサイズによっては、閲覧に時間を要することもあって必ずしも普及が進んでいませんが、地域連携室では「とちまるネット」導入・参加に関してサポートを行っていますので、どうぞご利用をお願いします。



<http://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/healthcare/products/humanbridge/>

ご登録の多い小林内外科科医院
小林先生にインタビュー いた
しました。(裏面)

国際医療福祉大学病院の病棟増築、宿泊棟など4施設の起工式を行いました。

国際医療福祉大学は、附属病院である国際医療福祉大学病院（那須塩原市）の増築と病院敷地内に新設する研究棟および宿泊棟、本学グループの社会福祉法人 邦友会が同院敷地内に新設する西那須認定こども園の4施設の起工式を5月21日、執り行いました。

本学と邦友会の高木邦格理事長、本学の大友邦学長、同市の君島寛市長らが神事に出席、安全祈願をしました。国際医療福祉大学病院はより充実した医療を提供するとともに、本年4月、成田キャンパスに医学部を開設したことに伴い、中核的な役割を担う実習施設としての役割を果たすため、55床の増床のための増築および研究棟を整備し、医学部実習生や教員らが宿泊できるホテルを建設します。今月から順次、建設を始め、新病棟は平成30年12月、研究棟は同年3月、宿泊棟は同年6月に完成予定。同病院はこれで408床となります。

また、西那須認定こども園は定員135人とともに、定員6人の病児保育を備えた施設となります。今年12月に完成、来年4月の開園予定です。

高木理事長は「栃木県北地域で充実した医療・福祉を提供できる拠点づくりをめざし、関東を代表する病院に育てていきます」と話しました。

鉄入の儀
(左より、高木理事長、大友学長)



研究棟

増築棟 (G棟)

宿泊棟

西那須認定こども園